

様式13

会派視察研修計画書

令和元年12月26日

碧南市議会議長 様

会派名

代表者名 林 田 要 

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	林田 要、生田綱夫、山中謙治、小林晃三、鈴木良和、鈴木清貴、杉浦哲也、沓名 宏		
日 時	令和2年1月21（火）～令和2年1月22日（水）		
視 察 先	1 愛知県安城市 2 滋賀県米原市 3 京都府綾部市		
研 修 内 容	1 ラウンドアバウト交差点について 2 給付型奨学金制度について 3 あやべ特産館について		
日 程	1月21日（火） 午前10時00分から午前11時00分 安城市現地視察（株式会社オオバ） 午後2時00分から午後3時30分 米原市 1月22日（水）午前10時から11時30分 綾部市現地視察（あやべ特産館）		
交 通 手 段	<input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関 (電車・新幹線)	<input type="checkbox"/> 公共交通機関 (飛行機)	<input checked="" type="checkbox"/> 自家用車

※該当するものにチェック☑してください

会派視察研修報告書

令和2年 2月 28日

碧南市議会議長 様

会派名 新政会

代表者名 林田 要 印

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 8名分の視察研修報告書を添付いたします。

参加議員	沓名 宏、杉浦哲也、林田 要、鈴木清貴、 小林晃三、生田綱夫、鈴木良和、山中謙治
日 時	令和2年 1月21日（火）～令和2年 1月22日（水）
視 察 先	愛知県 安城市 滋賀県 米原市 京都府 綾部市
研 修 内 容	安城市 「ラウンド アバウト交差点」について視察研修 米原市 「給付型奨学金制度」について視察研修 綾部市 「あやべ特産館」について視察研修
日 程	1月21日（火） 安城市 1月21日（火） 米原市 1月22日（水） 綾部市
備 考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

視察研修成果報告書

令和2年1月30日

議員氏名 林田 要 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 令和2年1月21日（火）～令和2年1月22日（水）
- 2 視察先 愛知県安城市、滋賀県米原市、京都府綾部市
- 3 視察の種類 会派行政視察研修
- 4 視察の成果等

1月21日（火）

愛知県安城市「環状交差点について」

安城市の第7次総合計画において定められた環境首都安城の一環として、市街地整備の中で旧製菓工場跡地において150戸規模の宅地整備が行われた。その中で環状交差点を取り入れた街並みの開発をされている。実際に企画、整備を担当した民間事業者の説明を受けた。全国的にも増加してきている環状交差点は、進入時の速度減速による事故防止の効果が見込まれており、碧南市においても新規開発する際には環状交差点の導入が望ましいと考えられる。

滋賀県米原市「給付型奨学金制度について」

4町の合併で誕生した米原市では、従来の貸付型奨学金に代わり、一定条件を満たすことを前提とした給付型奨学金に取り組んでいる。大学など高等教育卒業後に6年間を米原市内に居住することを条件とすることで、優秀な若者の定住を促進することを目的としている。この春には卒業生第1号が誕生する見込みであり、制度の効果が検証される。このような取り組みは全国でも事例がなく、愛知県内の比較的恵まれている自治体においても、給付型による若者の定住促進の制度は早めに決断すべきではないかと考える。

1月22日（水）

京都府綾部市「あやべ特産館について」

大手繊維事業者であるグンゼの敷地内において、綾部市の特産物を中心とした特産館を用意し、訪れた観光客へ地場産業の総合的な情報提供と同時に土産物を含む観光名所の一つとして事業展開されている。指定管理者による運営となるが、現地の説明を受けたところ、碧南市のあおいパークが提供している内容とほぼ同等か、あおいパークの方が、より中身が充実しているように思えるものであり、残念ながら期待していた成果を得るに至らなかった。

視察研修成果報告書

令和2年 2月10日

議員氏名 小林 晃三 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和2年 1月21日（火）～令和2年 1月22日（水）
- 2 視察先 愛知県安城市・滋賀県米原市・京都府綾部市
- 3 視察の種類 新政会 会派視察研修
- 4 視察の成果等

1月21日（火） 愛知県安城市「環状交差点について」

安城市の総合計画において環境首都安城の取り組みの一つとして、市街地整備を行う中で製菓工場跡地に150戸程度の宅地整備が行われた。その開発の中で環状交差点を取り入れた整備がなされている。当日は企画整備を担当された民間業者のお話を伺いながら現地研修を行った。環状交差点については全国的には増加傾向にあり、進入方向が一定で速度減速の効果もあり交通事故防止に役立つとのことだが、経験がない状態では混乱をするように感じる。高齢者ドライバー等の増加傾向を鑑みると設置には幅広い周知も必要になるのではないかと感じました。

1月21日（火） 滋賀県米原市「給付型奨学金制度について」

米原市は4町の合併にて誕生した。従来の貸付奨学金に代えて、一定条件を満たせば給付される給付型奨学金制度を行っている。大学など卒業後に6年間、米原市に居住することを条件にして、若者の定住を促進させることが目的である。制度開始からまだ日が浅く詳細な分析は今後を見なければならぬが、給付型の奨学金は全国的にも珍しく、若者の定住促進に効果が期待できると思います。

1月22日（水） 京都府綾部市「あやべ特産館について」

繊維事業者グンゼの敷地内に綾部市の特産物を中心とした物品を販売する建物と地元ボランティアが育てているバラ園で構成される。綾部を訪れた観光客への情報発信の機能もある。碧南市のあおいパークのような施設であるが、綾部市のケースでは商工会議所の委託なので様々な特産品が並ぶが、農産品は少なかった。

視察研修成果報告書

令和2年1月28日

議員氏名 査名 宏

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和2年1月21日（火）～令和2年1月22日（水）
- 2 視察先 愛知県安城市・滋賀県米原市・京都府綾部市
- 3 視察の種類 新政会会派視察
- 4 視察の成果等

一日目は、安城市和泉町でラウンドアバウト交差点についてである。製菓会社の跡地で、146件の注文住宅街の中にあつた。直進であっても中央の島を回ることになり、減速しなければならないので、出会いがしらの事故も無く安全は確保されるが、交差点の住み切りは倍近い面積が必要となる。愛知県内では6ヶ所目で、まだまだ開発がおくれている。

午後は、滋賀県米原市で「給付型奨学金制度」の説明を受けた。大学等を卒業後に米原市に定住する人に月額30,000円、最長4年で貸与ではなく給付であるので、所得制限はあるが年40名ほど受けられる。世帯年齢が920万円で父・母・中2・高3・大2でも給付されているので、かなり力がいっているようだ。まだ初めて2年目であるので今後は楽しみである。

二日目は、京都府綾部市で「あやべ特産館」での説明を受けた。指定管理で商工会議所に委託され来館者は、15万人で売り上げは、6千2百万円ほどである。敷地内にはグンゼ博物苑（グンゼ株式会社）綾部バラ園（綾部バラ会）そしてこの「あやべ特産館」がある。グンゼ（株）発祥の地で今も本社があり、この敷地もグンゼの所有であり貢献されている。当市の「あおいパーク」はJAに委託しているので、農産物が中心であるが、商工会議所に委託されているので、綾部市の特産品すべてが置かれていることが違う点である。「あおいパーク」にも特産品を置いてもいいかもしれない。

最後に、二日間にわたりお世話になった関係各位に感謝を申し上げ、視察報告といたします。

視察研修報告書

令和2年1月30日

議員氏名 生田 綱夫

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和2年1月21日（火）～令和2年1月22日（水）
- 2 視察先 愛知県安城市
滋賀県米原市
京都府綾部市
- 3 視察の種類 会派視察研修 新政会
- 4 視察の成果等

研修内容

1月21日（火） 愛知県安城市

ラウンドアバウト交差点について (株)オオバ

滋賀県米原市

「給付型奨学金制度について」

1月22日（水） 京都府綾部市

「あやべ特産館について」

研修所感

1月21日（火） 愛知県安城市 「ラウンドアバウト交差点について」

安城市の和泉地区に開発されたタウン計画の一角にラウンドアバウト交差点を設置することにより、タウン内の車速を落とし安全走行させることを目的として、タウン入口部に設置されてました。

このタウンは150件近くが集中的に建てられており、外部からの通り抜けをさ

せない工夫がされており、その入り口部分にラウンドアバウト交差点を設けている。

愛知県内では六ヶ所目の設置で、通常の交差点とは通過速度の低下や重大事故の減少につながり、安全性を保つ作りとなっている。

その他、信号機が付かない事により、その後の維持費や電気代の削減が見込まれている。これをどこでも設置すれば良い様にも思われるが、一日の通行量が一万台以内の交差点向きだとも言われている。

市内でも、設置可能な場所があるかは、検討を必要とすることになると思われる。

1月21日(火) 滋賀県米原市 「給付型奨学金制度について」

米原市教育総務課

通常の奨学金制度は4年間に受け取った資金を、その後ローン形式により返還義務が発生するが、今回は給付型であるため変換の必要が無い給付金である。

これは、条件を付け将来米原市に戻って来ることを条件にすることにより、優秀な人材をふるさとして、当市に残すことを目的とし、将来的な人口減にも歯止めをかける事も考慮されている。

他の一般的な奨学金と併用して利用できるので、将来地元に戻ってくる希望があるならば、使うに越したことはないと思える。

まだ、始まって2年目であり、戻って来ない人たちの対応などは、その都度考えどころであるので、今後の状況を見守ってみたいものである。

1月22日(水) 京都府綾部市

「あやべ特産館について」

あやべグンゼスクエア内に、グンゼ博物館と綾部バラ園、あやべ特産館と3つの施設で形成されている。

運営主体が異なる3つの施設を運営する事により、集客力のある観光拠点となることを目指している。

元々グンゼの工場跡地を整地しこのスクエアを利用しており、地域産業の発展を中心に市から商工会議所に委託事業として運営を任せている。委託料はほぼ人件費にあてられ、後の維持費はほぼ売り上げ金を回して運営が成り立っている。バラ園については、市民ボランティアの手により維持されそのほかにも市民からの協賛金を一口3千円で持取り賄われて、市民全体の憩いの場として、視察当日も多くの子育園児や観光客又は特産館のリピーターが訪れていた。

当市のあおいパークにも発想を取り入れられる部分はあるようにも感じた。

会派視察研修報告書

平成 2年 1月30日

議員氏名 山中 謙治

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成 2年 1月21日（火）～平成 2年 1月22日（水）
- 2 視察先 安城市 滋賀県米原市 京都府綾部市
- 3 視察の種類 会派視察研修（新政会）
- 4 視察の成果等
 - 1月21日（月）安城市「ラウンドアバウト交差点」について
安城市和泉地区の工業地域内に民間開発により、144世帯の住宅地を開発した。住宅内に十字に交差する道路はなく、信号機もない。車の速度も出しにくく、静かで交通事故も起きにくい設計になっている。近くに23号線（知立バイパス）など幹線道路があるが、住宅内への出入り口は2箇所しかなく通り抜けの為に流入する車もない。
2箇所ある出入り口の内、メインとなる出入り口にラウンドアバウト交差点があり、多方向より、交差点に進入できるようになっており、同円状に通行して出入りするシステムになっており、速度も出ず、安全性も高くなっている。
 - 所見
ヨーロッパのような放射線状に道路が張り巡らされたようなシステムではないが、渋滞による通り抜けの道とするなら住宅地域内世帯の生活道路であり、静かで安全だと思う。
ただ、間違っ入ってきた車にはシステムがわかりにくいのでラウンドアバウト交差点を逆走する可能性があり、表示をもう少ししっかりする必要があると思われる。
 - 1月21日（月）米原市「給付型奨学金制度」について
米原市は新幹線・鉄道・高速道路など中部・近畿エリアの大動脈の結末点であり、滋賀県で唯一、新幹線の駅があり、交通の要所であるが人口減少が進んできている。そうした中、大学への進学率は75%と高くなっており、経済的な事情により進学を断念せざるを得ない若者も多い。
米原市は少子化、人口減少が進行する中、「Uターンする人材」「I・Jターン」の確保につながる環境づくりの取り組みとして、大学卒業後、の定住促進を図る為、給付型の奨学金制度と構築した。
奨学金給付の対象は卒業後、市内に定住する者に給付する者であり、定住しない者

は返還が必要となる。

対象となる人の要件は①引継ぎ市内に一年以上居住する者と政経を一にする人②経済的理由により学資金の支援が必要と認められる人③大学等を卒業後、市内に定住する意思のある人 等あり、米原市奨学金給付審査会に諮って検定している。

奨学金の金額と期間は月額3万円（年間36万）、正規の修学期間終了まで（最長4年間で申込は1回限り）

必要となる予算は対象者年間40人程度とし、4年目5,760万円となり、一般財源で賄っている。

●所見

本市に於いては働く場所があり米原市とは状況は違うが、住みやすい街づくりを考えていかないと若者の定住が望めないと思われる。

西三河各市においても、それぞれ状況に違いがあるので、本市独自の対応が必要と思う。

●1月22日（水）綾部市「あやべ特産館」について

「あやべ特産館」はグンゼ本社工場跡地にグンゼ博物館・綾部バラ園の主体の異なる3施設を一体的な観光施設として集客力のある観光拠点を目指して平成26年5月にオープンした。

2019年は来場者16万人弱、売上高6,200万円と着実に増加している。

運営については市からの委託を受け、商工会議所が運営しており、職員3名、パート従業員3名にて運営を行っている。

収入は市の委託料・助成金及び販売等併せて8,000万円ほどのことであった。

販売品は綾部市の特産品や農作物・加工品の他に、仕入販売品として酒類、生花、青果、菓子等も販売している。

●所見

本市においても「あおいパーク」で農産物の販売施設がありますが、今回視察させていただいた「あやべ特産館」は喫茶コーナー・観光コーナーも併設しており、手づくりの皮製品、グンゼの衣料等も販売していました。

そして何より感心したのは地元特産品のパッケージが素晴らしく、あたかも民間のお土産店のようであり、来場者の購入に繋がっていると思う。

「あおいパーク」の新鮮・安いという特性も良く理解できますが、本市においても今後、観光や交流人口増加による経済効果を向上させるためにも道の駅など複合施設の設置と販売方法の検討を求めます。

視察研修成果報告書

令和2年1月28日

議員氏名 鈴木良和

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和2年1月21日（火）～1月22日（水）
- 2 視察先 安城市 滋賀県米原市
京都府綾部市
- 3 視察の種類 会派視察研修（新政会）
- 4 視察の成果等

1月21日（火）安城市にて「ラウンドアバウト交差点」について
交差点の一種で3本以上の道路を円形のスペースを介して接続したもので、この円形の真ん中には中央島と呼ばれる円形の通行できない区域がある。車両はこの中央島の周りの環状の道路を一方方向に通行する。信号機はついてはいない。この交差点は住宅地内にあり交差点流入時通過速度の低下や横断時の安全性が向上。

碧南市においても伊勢地区開発において「ラウンドアバウト交差点」を導入してみてもどうかと考える。

1月21日（火）「給付型奨学金制度」について米原市（山東庁舎）にて研修しました。「若年世帯が移り住むまちを創る」に関連する取り組みです。

米原市は少子化、人口減少が進行する中で、持続する町の将来を担う人を育て、一方で就職や結婚、出産や自宅購入を契機に「Uターンする人材」や市を評価して移住する「I・Jターン人材」の確保につながる環境づくりに取り組まなければならない状況にあり、一方で高等教育への進学率が上昇し、多額の進学費用が必要とされ学生のいる世帯の経済的負担が重なっている。

こうした中で意欲と能力があるにもかかわらず経済的事情により進学を断念せざるを得ない者がいる状況がある。そこで米原市への愛着と誇りを持った意欲のある若者を対象にした給付金型の奨学金制度を構築し教育を受ける機会の均等を図り、進学の後押しと修学後の市内への定住促進を図ると唱っています。奨学金制度のポイントとしては若者の夢と希望を実現すると共に市内への定住を促進する。

- (1)米原市の未来への投資となる制度とする
- (2)貸与ではなく給付（入学時から給付）とする
- (3)卒業後、市内に定住する者に給付するものとする（給付を受けた者のうち卒業後、市内に定住しない者は返還が必要となる）

事業の概要は年間40名程度、月額3万円、年間36万円、4年間で一人当たり

144万円であり40名の場合5760万円となり、この金額は標準装備として恒久的な制度としたいことから財源は一般財源(税込)としている。

今後の展望では(1)毎年度40名の奨学生を決定して奨学金を給付し、米原市の未来への投資とする。(2)大学等様々な分野で学び、市の将来を担う有用な人材の育成を図る。(3)定住の促進を図り、人口流出・人口減少の対策につなげる。

今回の研究成果は将来を担う有用な人材の育成が重要であるということをいち早く米原市が気付いた事だと考える。碧南市も将来を見据えた考え方がとても必要であるとする。他市比較という考え方ではなく碧南市の色を出していくべきと考える。

1月22日(水)綾部市「あやべ特産館」について視察研修しました。

舞鶴若狭自動車道と京都縦貫自動車道がともに平成26年度に全線開通し、綾部市が高速道路で全国とネットワークされることを契機として、綾部の特産品や農産物を販売する店舗と喫茶・休憩コーナー・観光案内コーナーなどを併せた施設を青野町のグンゼ博物館苑内(あやべグンゼスクエア)に新設した。

決算内容(2018年)については購買者数約58000人、売上高約6850万円、客単価1177円。

運営経費については市からの委託料約1100万、売上約6850万円、雑収入約160万円・収入合計8100万円。

支払は仕入約5400万円、人件費約1300万円、リース料330万円となっています。

販売員の体制については商工会議所職員3名、パート従業員3名の計6名体制。

販売方式については委託販売と仕入れ販売。

販売品の選定については生産者に一任している。

本市にも市中心から離れたところに、あおいパークがあります。陳列方法を変えてみたり、鮮魚を置いてみたりしてはどうか。おもてなしの精神を忘れず、販売意識を高めていかれることを希望します。

最後に2日間にわたる関係各位感謝を申し上げ、視察報告といたします。

会派視察研修報告書

令和2年 2月 6日

議員氏名 鈴木清貴

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和2年1月21日（火）～令和2年1月22日（水）
- 2 視察先 ①安城市
②滋賀県米原市
③京都府綾部市
- 3 視察の種類 会派行政視察
- 4 視察の成果等

①安城市調査事項：ラウンドアバウト交差点について

和泉町地内、いずみ製菓工場跡地を再開発して整備された住宅団地のシンボルとして設けられている交差点。

住宅地内の交通量の少ない交差点には大変有効と思われる。交通量が多い地区では直進通過が出来ないため渋滞の原因となる可能性が大と思われる。

信号機が不要のため、維持管理コストが削減される。

碧南市においても、交通量の少ない住宅街や裏道では有効と思われるが、交差点用地の確保が課題となると思われる。

②米原市調査事項：給付型奨学金制度について

面積：約 250 km²キロ

人口：38,937人（R2.1.1現在）

2005年旧4町が合併。（近江、山東、米原、伊吹）

新幹線・鉄道・高速道路など中部・近畿エリアの大動脈の結節点であり、交通の要所（京都・名古屋まで約20分、新大阪まで約35分）

人口動向：長浜からの人口流入がある一方で、市民は結婚・自宅購入を契機に彦

根などの近隣市に流出する傾向

給付型奨学金制度の目的

平成30年度スタート

米原市への愛着と誇りを持った意欲のある若者を対象にした給付型の奨学金制度を構築し、教育を受ける機会の均等を図り、進学の後押しと修学後の市内への定住促進を図る。

奨学金制度のポイント

- 若者の夢と希望を実現するとともに、市内への定住を促進する米原市の未来への投資となる制度とする。
- 貸与ではなく、給付（入学時から給付）とする。
- 卒業後、市内に定住する者に給付するものとする。（給付を受けた者のうち、卒業後、市内に定住しない者は返還が必要となる。）

対象要件

(1) 次のいずれにも該当する人

- ①引き続き市内に1年以上居住する者と生計を一にする人
- ②奨学金の給付を受けようとする年度の前年度の3月31日現在において満25歳未満である人
- ③経済的理由により学資金の支援が必要と認められる人
- ④大学等を卒業後、市内に定住する意思のある人
- ⑤本人及び生計を一にする人に市税等の滞納がない人

(2) その他

米原市奨学金給付審査会に諮り決定する。

奨学金の金額と期間

金額：月額3万円

期間：正規の修学期間が終了するまで（最長4年間）

（大学進学の場合年間36万円、4年間144万円）

財源 恒久的な制度とするため、一般財源。

予算額 1年目 40人×3万円×12月=1,440万円

2年目 1,440万円×2学年=2,880万円

3年目 1,440万円×3学年=4,320万円

4年目 1,440万円×4学年=5,760万円

制度がスタートして2年のため、対象者から卒業生が出ていない。

学費の負担が大きくなっており、進学を諦めたり、卒業後の奨学金返済が負担になることが、問題になっている折、給付型の奨学金制度を市単独で創設したことは大英断と評価する。

一方、優秀な学生の市内への定着を目的としているものの、市役所職員の青田買いの制度のように思えた。

③綾部市調査事項：あやべ特産館について

あやべ特産館（綾部市・綾部商工会議所）とグンゼ博物館（グンゼ株式会社）、綾部バラ園（綾部バラ会）の運営主体が異なる3つの施設を一体的な観光施設として運営することにより、集客力のある観光拠点となること目指し、平成26年5月にオープン。

事業内容

- ①特産品・商工品販売事業（和菓子、農産加工品、地酒、手工芸品、工業製品の発掘、開発を奨励し、受託販売を行う。）
- ②農産物直売事業（生産農家の生産・出荷を奨励し、受託販売を行う。）
- ③カフェ事業（綾部茶など特色ある飲食物の提供）
- ④観光案内事業（観光パンフレットの設置及び観光案内、観光情報の発信、あやべグンゼスクエアの総合案内などを行う。）

施設規模

建物面積：380.81 m²（店舗面積約200 m²）

駐車場：普通車約53台、大型バス2台

総事業費：約1億5,500万円

平成30年度来館者数 123,045人、売上高 68,461千円

職員 商議所職員3名、パート3名（計6名）

平成30年度市委託料 9,315千円

平成30年度商品別売上比率

数量 ①野菜40% ②菓子類22% ③加工品17%

金額 ①加工品24% ②菓子類20% ③野菜19%

平日の視察のため、観光客はほとんど見えなく、閑散としていた。

中途半端な、道の駅と土産物屋の合併店舗と感じた。起爆剤としては弱い。

以上を持って視察を終了した。

様式 15

視察研修成果報告書

令和2年 2月27日

議員氏名 杉浦 哲也

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 令和2年 1月21日（火）～ 令和2年 1月 22日（水）
- 2 視察先 愛知県安城市・滋賀県米原市・京都府綾部市
- 3 視察の種類 会派視察研修
- 4 視察の成果等

●安城市 「ラウンドアバウト交差点について」

安城市は、第7次総合計画において、土地利用の基本方針として、住宅地供給のための市街地整備を進めるとともに、店舗・工場などとの調和に努め、居住環境の向上を図るものとしており、都市計画マスタープランにおいても、市街化区域内の一部既存工業地については、将来の土地利用の方向性を見極め、工業的土地利用と住宅、商業などとの調和を図った土地利用を誘導するものとしています。そこで、この計画に基づき、安城市和泉町の「いずみ製菓」本社工場跡地に民間企業による約150戸の大規模な宅地開発が行われた。そして、開発された、この宅地内に「ラウンドアバウト交差点」が整備されていました。

* ラウンドアバウトの効果・影響

- ・交差点流入・通過速が低下し交差箇所が減少するため重大事故が減少。
- ・歩行者交通の安全性が向上。
- ・騒音の低減につながる。
- ・地内のシンボルとして景観形成に寄与。
- ・停電時でも混乱なく交通処理が可能。

●米原市 全国初の「給付型奨学金制度について」

* 制度創設の目的

米原市では、少子化や人口減少が進行する中で、持続するまちの将来を担う人を育て、一方で就職や結婚、出産や自宅購入を契機に「Uターンする人材」や、移住する「I・Jターン人材の確保につながる環境づくり」に取り組まなければならない状況にある。

また、一方で大学への進学率が上昇し、多額の進学費用が必要とされ、学生のいる世帯の経済的負担が重くなっている中、意欲と能力があるにもかかわらず、経済的事情により進学を断念せざるを得ない者が多くいる状況である。そこで、米原市への愛着と誇りを持った意欲ある若者を対象にした給付型の奨学金制度を構築し、教育を受ける機会の均等を図り、進学の後押しと修学後の市内への定住促進を図るものである。尚、財源については、優秀な人材を育成するための未来への投資であり、恒久的な制度とすることから、一般財源で対応する。

* 制度の概要

1. 対象要件

- ・大学等を卒業後、市内に定住する意思がある。
- ・市内に一年以上居住する人と生計を一緒にしている。
- ・令和2年3月31日現在で25歳未満
- ・本人および生計を一緒にする人に市税等の滞納がない。
- ・経済的理由により学資金の支援が必要と認められる。
- ・父母等の認定所得金額が、収入基準以下である。

2. 給付金額等

- ・月額3万円／年間36万円／最長4年間で144万円
(但し、卒業後6年間、市内に居住すれば完全給付となるが、途中で市外に転居する場合、算定分の金額を返還しなければならない)

* 今後の展望

米原市の未来への投資と考え、毎年度40人の奨学生を決定して奨学金を給付し、定住促進を図り、人口流出・人口減少対策に繋げていきたい。

●綾部市 「あやべ特産館について」

あやべ特産館は、綾部の特産品や農産物を販売する店舗と喫茶・休憩コーナー、観光案内コーナーなどを併せた観光・交流拠点施設で、隣接している綾部バラ園、グンゼ博物館と連携し、海の京都拠点エリアにおける市街地観光の核としての役割がある。また、観光客やツアーの立ち寄りポイントとして定着を図り、地元農産物、農産加工品や商工品などの新たな販売機会を生産者等に提供し、市内業者の活性化を目指している。

* 運営等について

- ・運営は、綾部商工会議所に委託。
- ・運営費は、H30年度決算で委託料・売上等あわせて80,738千円。
- ・販売員の体制は、商工会議所職員3名、パート従業員3名(計6人)
- ・来館者数は、2014年度から2019年度までの6年間で約846,749人、年間平均約141,125人。
- ・販売品の出荷者は、個人・団体・法人合わせ、約493。